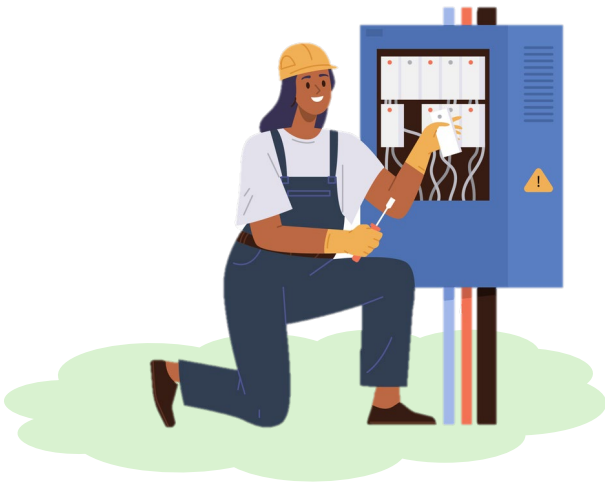


令和5年度

理工系分野で活躍する 女性からのメッセージ ～ロールモデル集～

STEM Women Role Models



男女がともに活躍できる社会へ



内閣府
男女共同
参画局

はじめに

現代社会では、科学技術が日々進歩し、私たちの生活に大きな影響を与えています。そのような技術の発展には、男女を問わず、様々な人々の力が必要とされています。しかし、理工系の分野では、まだ女性の割合が少ない状況にあります。

内閣府男女共同参画局は、このような状況を改善するために、女子生徒の皆さんが理工系分野に興味、関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージし進路選択(チャレンジ)することを応援するための取り組み「理工チャレンジ(リコチャレ)」を行っています。今回作成されたこの「理工系分野で活躍する女性からのメッセージ～ロールモデル集～」は、そのような取り組みの一環として、理工系分野で活躍している女性からのメッセージを紹介し、理工系分野の魅力を知らってもらうことを目的としています。

理工系分野に女性が参画することは、次の2つの理由から重要です。

- ① 多様な人々が集まることで、新しいアイデアが生まれ、科学技術へのさらなる革新的な成果が期待できます。
- ② 理工系分野で活躍する女性が増えれば、将来の女子生徒にとってのロールモデルとなり、次の世代での女性の参画につながります。

しかし今の日本には、「女子は理数系科目が苦手」などといった無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)があったりと、まだまだ多くの課題があります。この「理工系分野で活躍する女性からのメッセージ～ロールモデル集～」には、そうした壁を乗り越えるための情報が載っています。理工系分野での女性の活躍は、これからの社会にとって、とても大切なことです。この資料が、女子生徒の皆さんが、自分の進路選択の新しい可能性を広げていく一助となれば幸いです。

目次

1. はじめに	P	1
2. 目次	P	2
3. ロールモデルインタビュー		
No. 1 実は、数学が苦手でした	P	3
No. 2 「答えを見つける」ための「研究」ができることが最大の魅力!	P	4
No. 3 「気になったこと」に対して一歩踏み込み、さらに知ろうとする姿勢を大切に!	P	5
No. 4 好きなことを学び続けることができる、学んだことが、そのまま仕事につながる	P	6
No. 5 自分の性格や特性、得意なことに合わせて様々な選択ができる	P	7
No. 6 人生「何とかなる」の範囲が凄く広い!	P	8
No. 7 苦手だから諦めるのではなく、初めに興味を惹かれた気持ちを大切に育て!	P	9
No. 8 学んだことが、誰にも左右されない自分の基礎となる	P	10
No. 9 問いに対する答えが明確にあることが魅力	P	11
No.10 女子の割合が少ないとはいえ、周りに1人もいないという状況は滅多にない	P	12
No.11 人生という時間の自由度や暮らしやすさが充実!	P	13
No.12 得られた知識や考え方が仕事に活かせるのが魅力!	P	14
No.13 男女比を気にせず、自分のやりたいことを!	P	15
No.14 身構えず、興味があるなら理工系に進学を!	P	16
No.15 「専門性」は社会で仕事をする中での大きな自分のアイデンティティに	P	17
No.16 理工系で求められることは、「技術力」だけ、性別は関係ない	P	18
No.17 「物事のしくみが分かる楽しさ」「分からないことを自分で探求する 楽しさ」が大きな魅力!	P	19
No.18 理系に進むことは「普通なこと」世の中の役に立てることは大きな「やりがい」	P	20
No.19 難題を乗り越えた先には達成感が、一歩踏み出しチャレンジを!	P	21
No.20 自身の好奇心と、やりたいと思う心を大切に!	P	22



五十嵐 有佳さん

- ・20代後半/理学系/酒造開発
- ・山形大学理工学研究科卒業
- ・山形大学大学院理工学研究科修了
- ・化学に関わりながらものづくりがしたいと思い、米沢市の酒造メーカーである小嶋総本店に勤務。商品開発やブランド戦略、ストア管理なども行う

“実は、数学が苦手でした”

理工系に進んだ理由

高校の時、目に見えない世界で起こる魔法みたいなことに興味を持ち仕事にしたいと考えたからです。当時はあまり文系のことにときめかなかったというのがありますが、星座や化学実験などは、「何で起きているんだろう」と見た目的にも感覚的にも興味がそそられました。あと実は私は**数学が苦手**でしたが、物理や生物など他の分野にもつながっていることを理解できてからは、数学に対する苦手意識も少し減ったと思います。

理工系に進むことの魅力

理工系分野の魅力は、**生き物や自然の働きを活用することで、人間の生活を豊かにできること**にあると思います。特に実際に実験などで**手を動かしたりものを作ったり**することが、**誰かの喜びにつながる点**は、他の分野に代えがたい魅力ではないでしょうか。私はもともと理科の教員になりたかったのですが、仕事の中で化学をキーワードに、「ものづくり」を子供たちに伝える機会もあり嬉しく感じております。

プライベートとのバランス

基本的に土日祝がお休みで、朝の8時から17時半までが勤務時間です。お休みの日は、私がヨガ好きで友人がヨガ教室の先生をやっているので、**朝からヨガ教室に通って、その後に地元の温泉でゆっくり過ごしたりしています**。最近はあまりできていませんが、学生時代からお世話になっていた**カヌークラブ**でガイドをしている時もあったり、山形に来てから農家さんやシェフなどの知り合いの方が増えたので、**食事会に参加したりして休暇を楽しむこともあります**。

学生へのメッセージ

気になったこと、好きなことを究めることが、ゆくゆくは仕事につながっていくと思います。特に理工系の分野は、**数学にはじまり生物や物理、そして化学と、現象がかかわるものは全てつながっている**ので、何か一つのことを学んだら、次は別の分野から考えてみたりすることで、現象がより深く理解できたり、スッと自分なりに納得がいったりします。こうしたことを繰り返していくことで、勉強が楽しくなったり、新しい発見につながったりすると思います。



小松 さゆりさん

- ・20代後半/理学系/研究職
- ・北海道大学生命科学院修了
- ・腸内菌、味覚の研究
- ・一般財団法人にてワクチンの研究に携わっており、次年度から博士課程に進学予定

“「答えを見つける」ための「研究」ができることが最大の魅力!”

理工系に進んだ理由

高校の時、生物の授業に興味を持ったのがきっかけです。人の体を細かく細かく分解すると「分子」と言われるものになります。普段当たり前に見ているものが、ごくごく小さな分子で作られていて、その**分子が繋がって動いていることの不思議さ・好奇心が生物にハマることになった**きっかけでした。周りに理系に進む女子は少なかったですが、自分の「好き」に従って理系に進みました。

理工系に進むことの魅力

「**研究**」ができることが最大の魅力です。教科書にある実験は答えを出すためのものですが、研究は「**答えを見つける**」ためのものだと思っています。数々の失敗の先で成功に繋がった時の喜びはとても大きいですし、思い付きでやったことが成功につながるような面白さもあります。ただ、大学時代は研究ばかりやっていたわけではなく、部活やアルバイトで新しい人との繋がりを作ることも楽しかったです。

プライベートとのバランス

私は研究が趣味というくらいに研究が好きなので、**気を抜いたら時間を忘れて研究に没頭してしま**います。しかし、自分が楽しいものに没頭している時間は何よりも楽しいです!仕事外では、人と話すこととお酒が好きなので、バーに行って常連の方や新しく来た方と話す時間は自分の世界が広がるのでとても好きです。

学生へのメッセージ

私は「勉強」と「研究」は違うと思っています。勉強は教科書の答えを学ぶこと。研究は「**答えを見つける**」ことだと思います。特に生物の分野は研究のアップデートが早く、自分の研究や発見した内容が2、3年後に教科書に載ってる、なんてこともあり得ます。何をやるにしても、**自分の中の「好き」に従って機会を逃さずに飛びついて行くことが大切だ**と思います。



瀧田 敦子さん

- ・30代/工学系/公設試験研究機関研究員
- ・秋田大学大学院工学資源学研究科
材料工学専攻修士課程修了
- ・北海道大学大学院工学院人間機械システム
デザイン博士後期課程修了
- ・助教として働いたのち、公設試研究員として従事

“「気になったこと」に対して一歩踏み込み、
さらに知ろうとする姿勢を大切に!”

理工系に進んだ理由

高校生の時、化学の教科書で見た製鉄工程と、真っ赤な鋼がきっかけで、鉄は硬いものというイメージが変わり、材料工学に興味を持ちました。小中学校の時は理科が得意で、高校では数学と化学につまづきましたが、物理には自信がありました。思い切って好きな分野に進んでみようと考え理工系の大学への進学を決めました。

理工系に進むことの魅力

理工系の学問にはルールや規則があることが魅力です。それがあることで、起こった現象に対する自分の考えが、相手に伝わりやすくなるのが嬉しいです。加えて、普段から身の回りにある物が、変形したり壊れたりした時、学んだルールや規則を当てはめ組み合わせながら、その原理まで理解できるようになることも魅力に感じています。

プライベートとのバランス

ワークライフバランスは両立できていると感じています。仕事とプライベートとのバランスを保つ上で意識していることは、スケジュールにすき間をつくり余裕を持たせることです。そして家庭の中で家族と助け合う際には、変に我慢しないで、自分がどうしたいか、どうして欲しいかをしっかり周囲に伝えることを意識しています。

学生へのメッセージ

勉強していく中で、得意・不得意な教科が分かってくると思いますが、その得意・不得意をまずは気にせず、「気になったこと」に対して一歩踏み込み、さらに知ろうとする姿勢を大切にしてください。企業や大学の中高生向けイベントなど、様々なことに触れて、興味を持つ範囲を広げることが将来の選択肢を増やすことに繋がります。



田村 文さん

- ・30代/理学系/エンジニア
- ・同志社大学理工学部数理システム学科
- ・統計学専攻
- ・現在はIT企業でSIerとしてIアプリ開発に携わっている

“好きなことを学び続けることができる、 学んだことが、そのまま仕事につながる”

理工系に進んだ理由

中学生の頃から、数学が好きだったからです。数学は答えが1つで、答えに辿り着くまでの道筋を考えて、組み立てていく過程が面白いと思っています。逆に暗記科目は少し苦手でした。また、周りの友人は文系進学が多かったですが、私の両親が2人とも理系選択だったこともあり、理系に進むということに抵抗はなく、進んでいけました。

理工系に進むことの魅力

「社会で生きる力」が身につくことが魅力だと思います。化学や物理の専門性は社会でそのまま仕事に繋がります。また、数学の問題を解く時の物事を順序だてて考えていくことは、「論理的思考力」として仕事でも日常でも様々な問題を解決することを助けてくれます。また、自分が好きなことを学び続けることができ、学んだことがそのまま仕事につながってできることが増えることは面白いです。

プライベートとのバランス

現在、アプリを開発する仕事に携わっています。お客様が求めるものを、自分が学んだことを使って制作し、喜んでもらえた瞬間は何よりも嬉しいです、自分の自信にも繋がります。また、リモートで仕事をしているため自分のペースで仕事を進めていけます。休日はカフェに行って読書や、自宅で映画鑑賞をしてリフレッシュしています。

学生へのメッセージ

理系に進む女性は割合としては少ないため、参考になれる人が少ないかもしれませんが。その道に進むことが不安になるかも。でも、結局は自分のやりたいことにつながる道を選択することが一番だと思います。理系分野で学んだことは社会でそのまま生きることが多いです。自分が好きなこと、これからやってみたいこと。自分の気持ちを大切に将来への1歩目を踏み出してってください。応援しています！



早見 莉子さん

- ・20代後半/理学系:/エンジニア
- ・兵庫県神戸市 出身
- ・関西大学 化学物質工学科 マテリアル科学コース卒業
- ・卒業後は株式会社プロテリアルでエンジニアとして勤務している

“自分の性格や特性、得意なことに合わせて様々な選択ができる”

理工系に進んだ理由

小中学校の時は理科が苦手でした。中学生のとき、神戸高専のオープンハイスクールに行き、金属を溶かし**自分の名前の形のキーホルダーを作った**ことで、金属のイメージが変わり、金属への興味が湧きました。高校での進路選択の際、高専での出来事が頭に浮かび、どうせなら楽しいことをしたいと考え理工系への進学を決めました。

理工系に進むことの魅力

理工系に進学することを決めた時、理学部、理工学部、工学部の3つの学部を検討しました。私は理屈が苦手だったのですが、手を動かして学ぶことは好きでした。そこで学ぶ対象に実体がある工学部を選択しました。**自分の性格や特性、得意なことに合わせて様々な選択ができる**ことが理工系に進むことの魅力であると思います。

プライベートとのバランス

休日は土日、祝日ですが、変則的な勤務もあります。実は4月に東京本社に営業として転勤するんです。もともと営業にも関心がありました。どうやって会社が利益をあげているのか興味があったからです。お客様と会社、片方がプラスになるのではなく、お互いにWin-Winな関係を構築できるような営業になりたいです。

学生へのメッセージ

日本の大学は、入学が難しく卒業は簡単とよく言われますが、私が学んだ大学の理工系に関しては4年で卒業するには努力を要します。「就職に有利だから」というフワッとした印象のまま入学するよりも、たとえ小さくてもよいので理工系でないとできない目的があった方が、勉学の面で辛いことがあったときに頑張れると思います。



M. Nさん

- ・20代前半/理学系/エンジニア
- ・北海道大学工学部環境社会工学科
環境工学コース卒業
- ・数理物質科学研究科科学専攻
- ・現在は電機メーカーでシステムエンジニアとして働いている

“人生「何とかなる」の範囲が凄く広い!”

理工系に進んだ理由

私は青森県出身で、自然が豊かな環境で育っていたのですが、だんだん森が伐採されてソーラーパネルが置かれるようになっていきました。その様子を見て、「本当にそれが環境にいいことなのか？」と正しく判断できるようになりたいと考えたからです。あと、生物が楽しかったので理系に進学しました。

理工系に進むことの魅力

人生って「何だかんだ何とかなる」と思っているんですけど、その「何とかなる」の範囲が工学部だと凄く広いことです。たしかに専門学校や医療系みたいに勉強と仕事のストレートなつながりというのは見えづらくかもしれませんが、就活をしていて印象的だったのは、研究に対して真面目に取り組んでいた姿勢を評価してくれる企業が多かったことです。

プライベートとのバランス

私は入社して1年なのですが、この1年間は業務自体に触れることはなくて、研修をがっつりやっていました。そういう意味では激務とかそういうことはありませんでしたね。私が就職したところは、**在宅と出社を選べたり**、あとは**服装も自由**だったりするので、いわゆる「働きやすさ」は充実していると思います。

学生へのメッセージ

実は私は**数学と物理がめちゃくちゃ苦手**で、受験も生物でゴリ押ししていったのですが、もしも理系のことに興味があるんだったら、他の色んな障壁は気にしなくても進んじゃったら意外といい道に繋がっているよと言いたいです。世の中の動きも、**理系に進んだら味方してくれるような環境**になってきているので、安心して進んで欲しいです。



秋元 美由記さん

- ・40代/工学系/エンジニア
- ・大阪府立工業高等専門学校電子情報工学科
(現:大阪公立大学工業高等専門学校)卒業
- ・高専卒業後、働きながら大学院に通い、
学位を取得。自動車メーカーでエンジニア
としてソフトウェア開発に従事している

“苦手だから諦めるのではなく、初めに興味を
惹かれた気持ちを大切に育んで!”

理工系に進んだ理由

幼い頃から科学教養番組や高専ロボコンが好きで、まるで魔法をかけられたようにワクワクしながら見ていました。でも勉強の方は、実は理系科目は得意ではなかったんですよ。そんな私が理工系に進学したきっかけは、90年代にNHKで放送されたドキュメンタリー「電子立国日本の自叙伝」「新・電子立国」で見た開発秘話に感動したことです。私もエンジニアになりたい!と強く心を動かされました。

理工系に進むことの魅力

私の専門分野で言えば、コンピュータの世界は「0」と「1」で情報を扱っていますが、その**二つの組み合わせで世の中これだけの物が動かせるのか、という凄さ**にあると思います。また、私は車に搭載されるコンピュータのソフトウェアを開発していますが、私が携わった車が街中で走っている姿を見かけると、頑張って良かったなと嬉しくなります。**頑張りが実際に目に見えるのも魅力**だと思います。

プライベートとのバランス

私の会社では多様な働き方への取り組みとして、**出産・育児だけに限らず、介護、不妊治療、癌などの治療と仕事との両立をサポートしてくれる制度**があり、**男女問わず働きやすい環境**が整っています。特に女性はライフイベントにより生活環境が変化しやすいですが、多くの女性が制度を活用してキャリアを継続されています。プライベートでは、休日にブラスバンドでの演奏やラグビー観戦を楽しんでリフレッシュしています!

学生へのメッセージ

理工系分野に興味があるけれど理系科目が苦手だから諦めるのではなく、**初めに興味を惹かれた気持ちを大切に育んで、勇気を持って一歩を踏み出して欲しい**と思います。この記事を読んでいるあなたが、次の理工系分野のロールモデルとしてさらに次の世代にバトンを繋いでくれることを楽しみにしています。



鈴村 美月さん

- ・20代後半/工学系/エンジニア
- ・慶應義塾大学理工学部物理情報工学科卒業
- ・慶應義塾大学大学院基礎理工学専攻
物理情報専修修了
- ・大学院終了後、日揮グローバル株式会社にて
プラントエンジニアとして勤務

“学んだことが、誰にも左右されない自分の基礎となる”

理工系に進んだ理由

小学生の時から算数、理科が得意で、教科書に載っている実験の結果と、自分で出した数式の結果が合うことに喜びを感じていました。なので、論理的に答えを導くことが自分の性格に合っていると思い理工系に進みました。他にも、小学生5年生頃に、喫煙によって黒くなった肺と綺麗な色の肺を比較した画像を見て、どうしてこんな違いが生まれるのか不思議に感じたり、動く指先を見て思い通りに動くことに疑問に感じたりして、**原因と結果の関係や仕組みに興味を持ち始めたからだ**と思います。

理工系に進むことの魅力

理工系分野の魅力は、**学んだことが、誰にも左右されない自分の基礎となる**ところが魅力です。問題を解くときに、自分の引き出しからどの公式を使うべきかを考え、それを使って1段1段答えへと進んでいくプロセスが楽しい分野だと思います。とはいえ大学で学んだ専門な内容は、社会に出てからそのままの形で使える機会は少ないです。ですが、それまで培ってきた**「自分なりの考えを得るためのプロセス」**は、取り組む問題に決まった答えが有る／無しにかかわらず、**物事と向き合う上でとても役に立っています**。

プライベートとのバランス

勤務時間は月曜から金曜の9:00～18:00です。土日や祝日は旅行したり家でゆっくり過ごしたりメリハリをつけてリラックスします。私自身はまだ利用したことはありませんが、**フレックスタイム制度や時短勤務制度など、勤務時間を調整できる制度があります**。これらを利用することで、育児や介護などこれからのライフステージに合わせて働き方にメリハリをつけたいと考えています。

学生へのメッセージ

中高生の時期は、「自分」という存在が固まりつつあるけれども、まだ柔軟な考えができる時期です。言いかえれば、**様々な知識や価値観をととも吸収できる時期**です。色んなことを知ることから、なんでだろうとか、自分とはどこが違うんだろう、ということに気付いて、その気付きがまた別の発見に繋がったりします。ですので、様々な物に触れ、多様な考えを理解して尊重できるようになって欲しいです。日々生活する中で、「なんでだろう」という問いを持つことを意識し、**日々の発見や他との違いを楽しんでください**。



多田羅 杏紗さん

- ・30代/工学系/エンジニア
- ・上智大学理工学部情報理工学科卒業
- ・University of Aberdeen (MSc, Information Technology) 修了
- ・現在はイギリスの通信会社「BTグループ」にソフトウェアエンジニアとして勤務

“問いに対する答えが明確にあることが魅力”

理工系に進んだ理由

小学生の時からずっと算数と理科が得意で、高校の文理選択でも自然と理系を選択しました。当時自分のWEBサイトを持つことが流行っていて、私自身も所有していました。それがきっかけで、情報系の学問に興味を持ち、もっと学んでみたいと考えました。大学では生物の情報伝達の仕組みについて研究しました。卒業後エンジニアとして働き、コロナ禍でのリモートワークで時間とお金ができたことで大学院に進むことを決めました。

理工系に進むことの魅力

問いに対する答えが明確にあることが魅力です。論理的な考えができるようになり、頭の中で要素を整理し、順序だてて考えられるようになるメリットもあると思います。トラブル対応の時に感情的にならず、冷静に物事に思考を巡らせて対処できているなど感じる機会が多くあります。仕事以外の普段の生活の中では、趣味の旅行に行く際にも、観光地を効率的に訪れる順序を決めることができ、プライベートでも非常に役に立っています。

プライベートとのバランス

素晴らしいバランスだと感じています。勤務時間は9時から17時で、コアタイムのないフレックス制です。フルリモート勤務ですので、通勤時間がなく、平日の夜なども好きなことに取り組みやすいです。土日、祝日がお休みです。今後はイギリスで仕事を続けながら日本のエンジニアとの仕事の違いを知りたいです。子供を持つなど、家庭も築きたいですし、仕事だけではなく、自分のプライベートも充実させていきたいと思っています。

学生へのメッセージ

最近は女子のエンジニアが増えていると聞きますが、実際の現場では男女比は9対1くらいです。同性の女子がいないと寂しいですし、女性に合わせた働き方についても分かってくれる人がもっと増えれば業界全体が盛り上がると思うので、興味のある方はぜひ理工系に挑戦してください。あとは、理工系の大学の研究は複数のメンバーで行うことが多いので、上手く支え合うために、コミュニケーションの機会を意識してつくることを大切にしたいです。



戸塚 理絵さん

- ・20代後半/工学系/エンジニア
- ・早稲田大学基幹理工学部電子物理システム学科
- ・同学部情報理工学専攻修士課程修了
- ・卒業後の現在はSEとしてソフトウェア開発に従事している

“女子の割合が少ないとはいえ、 周りに1人もいないという状況は滅多にない”

理工系に進んだ理由

こどもの頃、母がよくプラネタリウムや博物館などに連れて行ってくれたことから、次第に宇宙や科学に興味をもつようになりました。特に宇宙は、視覚的に美しかったことから好奇心がありました。修士課程修了後の進路としてSEを選んだのは、昔から、ものを創り出すことが好きだったので、仕事で携われたらいいなと思ったことが理由でした。

理工系に進むことの魅力

自分の興味関心のあることに集中的に取り組める点は魅力的でした。特に、所属していた学科は実験も多く、毎週楽しく取り組んでいました。現在はSEとしてシステム開発に携わっていますが、自分に向いていると感じます。将来的には、現在の分野に身を置きつつ、もっとできることを増やして、上流領域にもチャレンジしていきたいです。

プライベートとのバランス

土日祝休みの職場で残業も少なく有給も取りやすいため、プライベートとの両立はできています。仕事の特性上、自身のライフスタイルに合わせた働き方ができることも魅力で、現在は週3～4日リモート、週1～2日出社という働き方をしています。休みの日は、博物館に行ったり、美術館に行ったりと趣味を楽しんでいます。

学生へのメッセージ

理工系への進学に興味がある方は、ぜひその興味に従ってみてほしいです。私の学生時代も理工系における女子の割合は少なかったため、理工系を目指す女子が増えることは単純に嬉しいです。女子の割合が少ないとはいえ、周りに1人もいないという状況は滅多にないです。そのためあまり心配する必要はないと思います。皆さんのこれからの活躍を応援しています。



N.Tさん

- ・20代後半/工学系/エンジニア
- ・神戸県立大学工学部
電気電子情報工学科卒業
- ・現在は、関西電力で電気工事や電柱工事
の指揮監督、被災地支援などを行っている

“人生という時間の自由度や暮らしやすさが充実!”

理工系に進んだ理由

理系科目が好きだったことと、将来の選択肢が広がるからです。元々苦手だった理系科目ですが、中学の塾の先生から勉強の仕方を教えてもらい、ぐんぐんと成績が伸びる中で理系科目自体が好きになりました。また、高校の先生から、**理系の仕事は「その人にしかできない専門的な仕事」がたくさんあること**を覚えてもらったことも、理系の道に進むことを決めた一因です。

理工系に進むことの魅力

やはり最も大きな魅力は、**社会に出て役立つ力が広く身につくこと**だと思います。専門的な知識があるからこそできる仕事があり、助けられる人がいます。また、理系の大学では長いと1年間かけて継続的にチームで実験を行います。その中で身につく、**コミュニケーション力、チームみんなで頑張る経験は、社会に出て仕事をする中でも大きく役立っています。**

プライベートとのバランス

私は結婚して今2歳になる子どもがいます。基本的には**定時で仕事が終わることや、福利厚生がしっかりしていること、産休や育休も制度としてしっかり整っていること**、全て子育てする中では大切なことです。理系に限るわけではありませんが、**理系専門職は福利厚生面で充実していることが多いこと**も1つの魅力だと思っています。

学生へのメッセージ

大学に進むと、文系の学生の方に比べて理系の授業数は多く、自由な時間はもしかしたら文系の方よりも少ないかもしれません。ただ、社会に出た後の働き方や、福利厚生などを考えると、人生という時間で考えたときの**時間の自由度や暮らしやすさが充実している点**が理系職の魅力だと思います。「自分が将来どんな風に暮らしたいか」、という点から考えてみるのもいいかもしれません。



武田 悠さん

- ・20代後半/工学系/Webデザイナー
- ・千葉工業大学デザイン工学科卒業
- ・不動産の営業職を経たのち、ものづくりをしたいという思いからWebデザイナーとして広告やWebページの制作に携わる

“得られた知識や考え方が仕事に活かせるのが魅力！”

理工系に進んだ理由

高校生の時に、他の科目に比べて得意だった理系科目を選択しました。ちょうどその頃、スマートフォンアプリが普及し始め、人気になったアプリの中には個人制作のものもありました。こういうものが個人で作れるんだということに感銘を受けて、元々ものづくりが好きだったことや、自分の得意科目を活かすなら理系への進学が良いと考えていたことも相まって、工業大学のデザイン工学科という進路を選択しました。

理工系に進むことの魅力

自分の専門を突き詰めてそれをそのまま仕事にすることもできるし、自分の専門とは違う分野の仕事に就いたとしても、**理工系の勉強や研究で身につけた考え方は仕事を進める上ですごく役に立つ**と感じます。専門的にも一般的にも、身につけた知識や考え方を活かして仕事ができるという点は、理工系に進むことの魅力だと思います。

プライベートとのバランス

会社員として、オフィスに出勤して広告作成やWebページ作成の仕事をしながら、副業として、個人でも広告作成やWebページ作成の仕事を請けています。**リモートでの打合せが増えたこともあり、プライベートの時間もしっかり確保しながら仕事をする**ことができています。

学生へのメッセージ

理工系への進学について、オススメかオススメじゃないかって言われたら、もう**断然オススメはします**。**得られた知識や考え方が仕事に活かせる**というのは大きいですね。理工系に対して地味なイメージを持っている人も多いかもしれませんが、実際は全然そんなことないですね。自分の専門を突き詰めている人もいれば、何でもそつなくこなしてしまうすごい人もいたり、いろんな人がいる面白い環境だと思います。勉強や研究ばかりの陰気な世界じゃないよ、ということは伝えたいですね。



M.Yさん

- ・20代後半/理学系/データ分析
- ・慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科卒業
- ・慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修了
- ・大学院修了後は、IT系コンサルタント会社に勤務している

“男女比を気にせず、自分のやりたいことを!”

理工系に進んだ理由

小中学生の時から理科が得意でした。高校に入っても理科科目や数学が好きなことは変わらなかったため、文理選択では自然と理系を選択しました。高校生の段階では、漠然と理工系に進学するイメージがありつつも、進学したい学部については決めかねていました。そのため、理工系に限らず広い分野を学べる学際系の学部に進学しました。その中で様々な分野に触れた結果、やはり元々興味の強かった理工系の授業をメインに履修・研究テーマとしていました。

理工系に進むことの魅力

実験が多いので、実際に手を動かして、**目、耳、肌を通して学べる**ところが魅力です。細胞からDNAを抽出する実験など、教科書で見て技術的に可能だと分かっていることを、自分の手を使って確かめることができて楽しいです。大学での学びで身につけた**ロジカルシンキング**が**社会人になってからも役立っています**。自分の考えを伝える際、1つの話題に様々な要素が混ざっても、順序だてて整理してしっかり伝えることができています。

プライベートとのバランス

バランス良く働けていると思います。土日と祝日がお休みで、勤務時間は9時から18時のフレックス制です。今はプロジェクトの都合で在宅でのリモート勤務をしています。仕事ではデータ分析を担当していますが、まだまだこれから知らないといけないうことばかりです。今後はデータ分析とそれに付随するIT知識を学んでいくことで、データ分析の中でも、どんな領域を専門としてやっていくのか模索していきたいと考えています。

学生へのメッセージ

学生時代は研究に集中出来るのが楽しかった一方、研究活動が忙しく逃げ道がないと感じることもありました。**自分の環境を分かってくれる人に、自身の状況を話すことを大切にしてください**。理系進学に関して、男女比を気にせず、自分のやりたいことに取り組んで欲しいです。**理系の開発職や研究職は残業が少なく、休みがとりやすい職が多いと感じます**。ワークライフバランスをとりやすいと思うので、ぜひ挑戦して欲しいです。



F.Kさん

- ・40代/理学系/大学技術職員
- ・岡山大学理学部地球科学科卒業
- ・名古屋大学大学院理学研究科
地球惑星理学(地球化学)専攻
- ・現在は大学の技術職員として働いている

“身構えず、興味があるなら理工系に進学を!”

理工系に進んだ理由

地学に興味があって、もっと学びたいと思ったからです。そのきっかけは、小学生の時に流れたハレー彗星や、伊豆大島の火山噴火、NHKの「地球大紀行」という番組を見たことです。それに、神奈川県出身なので地震も多かったことも地学に関心を持つ要因になりました。高校2年生の時に気象学をやりたいと思い、**日本史も好きだったので考古学の道と比較した結果、就職の際に選択肢が多そうな理工系に進むことにしました。**

理工系に進むことの魅力

物事の真理の探求ができること、物を作ったり組み立てたり、新しいものを発見したり、実験が沢山できて楽しいところが魅力です。卒業した大学は編入学で入ったので苦しいこともありましたが、これらの魅力が自分の性格と合っていたので乗り越えられました。**学んだことを後々活かせる機会もあります。**研究に必要で身につけたプログラミングの知識は現在の仕事でも、膨大な動物の飼育記録のデータの管理をするのに役立っています。

プライベートとのバランス

お休みは土日、祝日のカレンダー通りですが、通勤時間が1時間30分かかるので、**家事を夫と分担しています。**例えば朝なら子供の弁当をつくる係、朝食の準備をする係に分けて協力して生活しています。基本的に帰宅は19時過ぎになり、夕食の炊事は基本私が担当ですが、帰宅が遅れる場合は夫が代打をしてくれます。自宅でプライベートに使える時間はいつも22時以降ですが、結婚20年も経つと悪くはないと思っています。

学生へのメッセージ

男ばかりだとか、これまでの変なイメージに惑わされず、興味があるなら理工系に進学してほしいです。生物、化学、地学などには女子が比較的多いので、身構えなくても良いと思います。もし就職に不安があるなら、大学の技術職員などをおすすめします。**転勤もまず無く、公務員並みの福利厚生、女性職員もけっこういます。**結婚、子育てを含めた働き方には派遣社員を含めた柔軟な道もあるので、過度に不安にならないで欲しいです。



R.Bさん

- ・20代後半/工学系/技術職
- ・三重大学工学部分子素材工学科卒業
- ・精密合成(化学)
- ・エレベーターの品質保証(製品検査、検査基準策定、監査)等に携わっている

“「専門性」は社会で仕事をする中での大きな自分のアイデンティティに”

理工系に進んだ理由

幼い頃から理系科目が得意だったからです。3歳の頃、姉にならってKUMONに通い始めた頃から数字に触れ始めました。高校での物理では、日常で見る様々な動きについて、感覚として「こんな力が働いているのかな?」と思っていたことが、**実際に数式として言語化されて証明されることに楽しさを感じました。**逆に文系の科目は答えが様々で苦手でした。

理工系に進むことの魅力

理系に進まないと知ることができないことがあることが大きな魅力だと思います。例えば私は大学の研究で、市販の薬がどのように作られているのか、を調べる過程で、その薬を作るための工程や、どれくらいお金がかかっているのか、などを知ることができました。また、自分が学んだことによる**「専門性」という力は、社会に出て仕事をする中で大きな自分のアイデンティティになります。**

プライベートとのバランス

完全リモートで仕事をしているため、自分の生活とのバランスが取れた状態で働いています。例えば、夜に友達とご飯に行く予定があるから、少し早めに始めよう、など**自分で仕事のペースを作れます。**これも、理系に進んで専門的な知識や力を持った状態だからこそ、実現できている働き方なんじゃないかなって思います。

学生へのメッセージ

最も伝えたいことは**「理系に進むことで選択肢が広がる」**ということです。社会に出る時に「理系のみ」という仕事は多くありますが「文系のみ」という仕事は少ないです。将来、やってみたいこと、興味を持ったこと、何か挑戦したいことが見つかった時に、**「その選択をできない」**ということが最も悔しいと思います。未来のことも少し考えながら、自分が好きなものを選んでいってほしいです。



石田 優佳さん

- ・30代/理学系/学校教員
- ・筑波大学大学院
- ・数理解物質科学研究科科学修了
- ・大学院終了後は、中高一貫校の理科教員として勤務している

“理工系で求められることは「技術力」だけ、性別は関係ない”

理工系に進んだ理由

本当は音楽の先生になりたくて、最初は文系に進学したのですが、ちょうどその時に病気になり楽器が弾けなくなっていました。それでも**学校の先生には憧れていた**ので、**直後に理転しました**。理科の教員になったのは化学が好きだったからですが、高校1年の夏休みにオープンキャンパスに行った際、たまたま見に行ったところの教授の実験室がとても楽しい内容だったので、是非ともここに進学したいと思い、それをモチベーションに勉強をしていました。

理工系に進むことの魅力

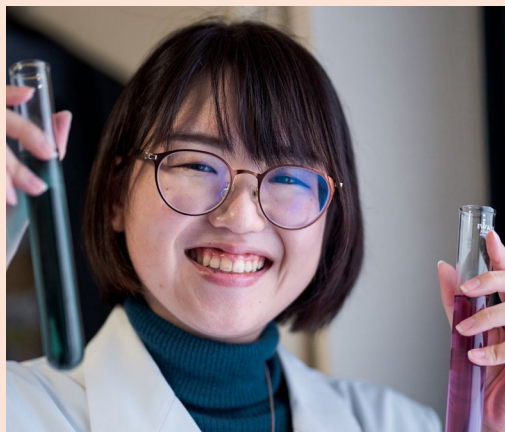
理工系で求められることは「技術力」だけなので、性別が関係ない点は魅力だと思います。また、**色々な資格が取れるのもメリット**で、危険物取扱者など大学生のうちから取得できるものも多いので、学生のうちに取っておくと就職に有利に働くかなと思います。あとは、特に今の若い世代の子たちはデバイスにとっても強いので、Javaなどのプログラミングの技術力を磨いていけば、他にも選択肢が広がるのが良い点だと思います。

プライベートとのバランス

教員なのでやはり休みはなかなか取得しづらいのですが、化学メーカーに勤めている私の友人と比べると、**実績や業績に左右されずに働くことができるのは利点**だと感じます。あとは、**福利厚生がとても手厚いので、育休を何回取っても必ず復帰できるという安心感**があります。そのため、復帰後も担任になれたり、時短勤務もできたりするので、そこは安心できる点です。

学生へのメッセージ

これは「理工系に進むことの魅力」でも言ったことですが、今の時代は技術力を突き詰めれば誰でも上にどんどんいける時代なので、**理工系の分野のどれか一つでも好きで「やりたい!」と思ったら、そこは怖がらずにチャレンジして欲しい**ですね。でも同時に、視野を広げて、自分が納得できる場所を見つけることも大事なので、私自身は生徒たちに対して「たくさん迷ってね、候補を探してきてね」と伝えてもいます。



青木 優美さん

- ・30代/理学系/研究機構広報
- ・上智大学理工学部卒業
- ・総合研究大学院大学高エネルギー加速器研究科素粒子原子核専攻博士課程修了
- ・イベント企画運営会社勤務を経て、現在は研究機構の広報に携わっている

“「物事のしくみが分かる楽しさ」 「分からないことを自分で探求する楽しさ」が大きな魅力!”

理工系に進んだ理由

もともと理科が好きだったので、高校の進路選択でも自然と理系に決めました。大学に入学後は化学を中心に、物理や化学など他の理科の科目を幅広く勉強しました。**研究が楽しく、物事の根本を知りたい**との思いから大学院の博士課程まで進みましたが、勉学への興味で突き進んだので、就職か研究かで迷いはありませんでした。

理工系に進むことの魅力

物事のしくみが分かること、分からないことを自分で探求する楽しさがあることが大きな魅力です。その2つの魅力が、今の広報の仕事に活かされています。理系の研究の記事内容を正確に理解できて、どこがポイントであるのか判断しやすいので、**研究の魅力や最新の研究について様々な立場の人に伝える**際に役に立っています。

プライベートとのバランス

土日祝日がお休みです。コアタイムの設定されたフレックスタイム制という、必ず会社にいなければいけない時間以外は7時～22時の間に入社・退社してもOKという制度で働いています。**早い時間に来て早めに帰るなど、自分の都合に合わせて勤務時間帯を調節できる**ので、ワークライフバランスは取りやすいと思います。

学生へのメッセージ

好きなことに対して真っすぐ突き進んでほしいです。それから、英語の「話す力」を早めに鍛えておいて損はないです。学会での発表や海外の研究者と交流する機会がありましたが、言いたいことを英語で表現できなくて議論の土台に立てず悔しい思いをしました。それでも、なんとかあったので**過度に英語を怖がる必要はありません**。



K.Mさん

- ・50代/理学系/グループ会社技術サポート
- ・慶應義塾大学理工学部計測工学専攻
- ・AI、数理最適化
- ・現在は某大手企業にてグループ会社全体の技術サポートに携わっている

“理系に進むことは「普通なこと」 世の中の役に立てることは大きな「やりがい」”

理工系に進んだ理由

世の中の役に立ちそうなイメージがあったことが理由です。当時、「テクノロジー」という言葉が社会を引っ張っているように感じていました。また、家族・親戚の中に理系出身の人が多かったのですが、そのなかで専門的な人もいればジェネラリスト的な人もいるなど、様々な職業に就いていたことから、**理系に進んだ先でできることが増えていくイメージをぼんやり持てたことが理系に進む決め手になりました。**

理工系に進むことの魅力

世の中の技術の発展と一緒に仕事に取り組めることが魅力です。初めはぼんやりとした興味だったことが、社会人の先輩と話す中で、**理系で学んだことが社会につながっている感覚を少しずつ持てるようになりました。**仕事をする中で、社会を大きく変えている技術の進歩と一緒に自分の仕事も変化している感覚があり、自分の目の前の仕事の大切さを感じています。

プライベートとのバランス

リモートワークで仕事をする事が多く、**プライベートと仕事のバランスを取りやすくなりました。**私が最初に社会に出たころはチャットツールなどもなく、それから考えると段々と仕事がしやすい環境になってきたと思います。私は出産、子育てを経験しており、その時は仕事との両立は少し大変でした。逆に**理系職で専門的な力があるからこそ、仕事に復帰することもスムーズだったと感じます。**

学生へのメッセージ

もし、理系に進むことに特別な抵抗を感じている方がいたら、**理系に進むことは「普通なこと」と伝えたいです。**理系の仕事だからこそ、私は仕事と日常の両立ができています。また、**世の中の役に立つ、世の中の進歩と一緒に歩いている、という実感を持てることはとても大きなやりがいとなります。**皆さんが選んだ道の先には、たくさんの先輩が待ってるので安心して望む道を進んでくださいね。



別府 慶子さん

・30代/理学系/生命保険会社営業(本業)

IT講師・デザイナー(副業)

・鹿児島大学理学部物理科学科卒業

・卒業後は東京で3年、鹿児島で8年、システムエンジニアとして働き、現在は生命保険会社にて営業として勤務しつつ、副業でIT講師やデザイナーとして働く

“難題を乗り越えた先には達成感が、一步踏み出しチャレンジを!”

理工系に進んだ理由

宇宙について学びたかったからです。天文学の漫画を読んだ時に、星の成り立ちが本当なのか知りたいという思いを持ちました。高校生の時に、しし座流星群の大出現がありました。事前の情報では、流星群が現れるかもよ、という曖昧な情報でした。その情報と実際の結果を見て、**現在の情報は絶対正しいわけじゃないのだ**と感じ、何が分かっている、何が分かっているのか知りたいと考え、理工系の大学への進学を決意しました。

理工系に進むことの魅力

理工系の分野は、私たちの生活を支える上で根本となる学問です。**身近な出来事の仕組みを具体的に理解できた時に、より身の回りの物事を楽しくてワクワクできるところが魅力**です。あとはPCを扱う中で、プログラミングを身につけたことによって、自分で考えること、理論立てて思考を整理する基礎を学ぶことができました。その学びが、これまでの職業で生活を支えたり、副業で自分のやりたいことを実現するために役に立っています。

プライベートとのバランス

両立できていると感じています。前職ではSEをしていたのですが、体力面を考慮して残業の少ない保険会社へ転職しました。基本は土日祝休みで、営業なのでお客様の都合に合わせて出勤する時もあります。**副業も行っていて、子供向けにIT講師をしています**。その仕事ではプログラミングやAI画像生成を教えています。まだ転職して一年たっていないので、仕事に慣れるため、しばらくは本業の保険会社に仕事の比重をおく予定です。

学生へのメッセージ

少しずつでも良いので、自分のやりたいこと、好きなことにしっかりと向き合ってほしいです。そうすることで、たとえ挫折したり、自らの希望する進路ではなかったりしても、何かの糧となると思います。そして、理工系大学に進んだ際には、行き詰まるのが何かしらあるはず。その時は、**「自分から助けを求めること」を心にとめておいて欲しい**です。難題を乗り越えた先には達成感が待っているの、一步踏み出しチャレンジしてみてください。



飯野 由佳さん

- ・30代/工学系/建設会社一般事務
- ・産業能率大学 情報マネジメント学部
現代マネジメント学科 通信教育課程
人材・組織マネジメントコース卒業
- ・技術職(電気技師)を経て、建設会社の
一般事務に従事している

“自身の好奇心と、やりたいと思う心を大切に!”

理工系に進んだ理由

理数系が得意というわけではなかったのですが、理系の問題を解く過程には面白さを感じていました。規定の解き方があるわけではなく、様々な道筋があることが楽しく、また解けたときの快感がとても好きでした。また、高校で文理を選択するタイミングで、文系から理系に行くことはできないけれど、理系から文系に行くことはできるという話を聞き、今やりたいことがあるわけでもないのに、もしやりたいことができたときに選べるよう将来の選択肢を広げたいと考え、理系を選択しました。

理工系に進むことの魅力

現在、建設会社の一般事務として働いているのですが、職場の人が困っているときに、さっと助けに入り役に立てることは、理系に進んでよかったと思います。例えばCADで簡単な設計図を描いたり、PCのセットアップをしたり、セキュリティ関連の打ち合わせで間に入って専門用語について噛み砕いて伝える等の橋渡しをしたり、人の役に立てる範囲が大きいとき、理系に進んでよかったなと思います。

プライベートとのバランス

現職では、残業はほとんどありません。そのため、仕事が終わってからは家族と過ごす時間を大切にしています。週末も家族で出かけるなどして過ごしています。転職前の独身時代は、技術職についていましたが、当時も週末は趣味であるライブやコンサートに出かけるなど、仕事とプライベートの両立が実現できていました。理系はワーク・ライフバランスを実現しづらいというイメージを持つ人もいますが、理系だからということはないのでは、と思います。

学生へのメッセージ

自分の好奇心と興味に従うことを大切にしてほしいと思います。私自身、親からは文系を勧められましたが、理系の道を目指しました。結果的には、やりたいと思った分野を選択できてよかったなと感じています。若い頃は周囲の声に惑わされがちですが、自分を信じる勇気が大切だと思います。少しでも自分の好奇心が湧いたことがあるなら、ぜひ、自分を信じてその道を探求してみてください。

